

(4) 理 科

ア 学習指導要領改訂の趣旨及び要点

ア) 改訂の趣旨

- 改訂の基本的な方向性は、次の2点である。
 - ・ 小学校理科で育成を目指す資質・能力を育む観点から、自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を基に考察し、結論を導き出すなどの問題解決の活動を充実した。
 - ・ 理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連を重視する。

イ) 改訂の要点

a 目標の改善

- 変更された点は、次の3点である。
 - ・ 目標の示し方として、最初に、どのような学習過程を通して資質・能力を育成するかを示し、(1)には、「知識及び技能」を、(2)には、「思考力、判断力、表現力等」を、(3)には、「学びに向かう力、人間性等」を示した。
 - ・ 各学年の目標については、「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の内容区分ごとに、育成を目指す資質・能力を示すこととし、①には、「知識及び技能」を、②には、「思考力、判断力、表現力等」を、③には、「学びに向かう力、人間性等」を示した。
 - ・ 各内容において、児童が自然の事物・現象を捉えるための視点や考え方を示し、それを軸とした授業改善の取組を活性化させ、理科における資質・能力の育成を図ることとした。

b 内容構成の改善

- 変更された点は、次の1点である。
 - ・ 「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の二つの内容において、児童が働かせる「見方・考え方」及び、育成を目指す「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を示していく。「学びに向かう力、人間性等」については、各学年の目標にそれぞれ示す。

c 学習内容・学習指導の改善・充実

- 新たに加えられた点は、次の2点である。
 - ・ 小学校理科で育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」のうち、「思考力、判断力、表現力等」については、各学年で主に育成を目指す問題解決の力を具体的に示した。
 - ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「主体的な学び」「対話的な学び」「深

い学び」の三つの視点に立った授業改善を図ることとした。

○ 従前の項目に加えられた点は、次の3点である。

- ・ 自然の事物・現象に働きかけ、そこから問題を見だし、主体的に問題を解決する活動や、新たな問題を発見する活動を更に充実させていくこととした。
- ・ 問題解決の力を具体的に示し、より主体的に問題解決の活動を行うことができるようにした。
- ・ 日常生活や他教科等との関連を図った学習活動や、目的を設定し、計測して制御するといった考え方に基づいた観察、実験やものづくりの活動の充実を図ったり、自然災害との関連を図りながら学習内容の理解を深めたりすることにより、理科の面白さを感じたり、理科を学ぶことの意義や有用性を認識したりすることができるようにした。

○ 従前と変わらない点は、主に次の1点である。

- ・ 観察、実験の充実を図っていく観点から、理科教育のための設備整備の支援や、理科の観察に使用する設備の準備・調整等を行う補助員の配置に取り組むことが必要であるため、その重要性を示し、教材や教育環境の充実を図る。

イ 指導計画作成のポイント

○ 新たに加えられた点は、次の3点である。

- ・ 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの、問題を科学的に解決しようとする学習活動の充実を図ること。
- ・ 各学年で主に育成を目指す問題解決の力を具体的に示した。実際の指導に当たっては、他の学年で掲げている力の育成についても十分に配慮すること。
- ・ 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

○ 従前と変わらない点は、主に次の1点である。

- ・ 道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、特別の教科道徳の内容について、理科の特質に応じて適切な指導をすること。